

徳善寺だより

平成14年10月15日

第二号

秋もだいぶん深まってまいりましたが、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

お盆、彼岸と終わり、私の方もご門徒の皆様方と一通りお会いすることができました。やっと私もこれで徳善寺の一員となれたのかなと胸をなでおろした所存でございます。これから阿弥陀様のお慈悲を通して益々ご門徒の皆様方とのご縁を深めていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

合掌

◆ おたより

《報恩講法要》

報恩講は当宗にとっては、一年のうちで最も大切な仏事です。当寺におきましては、11月16日にお勤めを行います。身近なお寺にするためにも是非皆様お参りくださいますようお願いいたします。

◆ 法要の予定

・ 報恩講法要

11月16日（土）午後2時より

○ 読経（正信偈）

○ 法話

尚、彼岸会は、3月に行いたいと思っております。たくさんのお参り、心よりお待ちしております。

◇ 報恩講とは

報恩講は、親鸞聖人のご命日をご縁に、阿弥陀如来のご恩、親鸞聖人のご苦勞に報謝する一番大切な法要で「ご正忌」ともいいます。

ご開山親鸞聖人は90年にわたるご苦勞によって、私たち本願念仏の教えを身をもって明らかにしてくださいました。

私たちの毎日は、いつも損得、善悪など自分の都合のみを考える生活で、煩惱のたえまがありません。

こういう助かる手立てのない私たちが、本願念仏の教えに目覚めたならば、助かる手立てのないままに阿弥陀如来のお助けにあずかるのです。

これによって人間として本当に人間らしく生きることができるのです。

私たちはこの上ない生きる喜びを与えて下さったご恩にむくい、聖人のご苦勞をしのび、聖人の教えを自らのものとして、皆ことごとく精進して仏法を深めていかななくてはなりません。

ここに報恩講の意義があり、真宗門徒にとって年中行事のなかでも、最も重い法要であります。

◆ 編集局後記

いい季節になりました。創刊号を発行しましたときを思えばしのぎやすくなりました。暑さ、寒さがひとしお身にこたえる年になりますと、春、秋は有難い季節と思います。この暑い夏に研修に参加しましたが、参加者は教えと共に、宗門はいかにあるべきかなど、分科会に別れて論議を重ねました。学んだこと、機会がありましたら、お伝えしたいと思っております。

《 総代 尾川 一 》